

教 育 研 究 業 績 書		
令和4年 3月 31日		
氏名 柴 ひ ろ 印		
認 定 を 受 け よ う と す る 課 程 に お け る 担 当 授 業 科 目		
教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	教科に関する科目
【通学】 ・教育実習(複数担当教員) 【通学】 ・保育内容「環境」(単独)		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 ①教職実践演習でのグループワーク及びフィールドワークの実施 ②子どもと絵本において、絵本の読み聞かせを行い、幼児の心に響く絵本の読み方、言葉の発音、文章の表現の工夫について指導する。	平成25年度 平成25年度	グループワークにおいて、自分の課題や実習体験からの学びや幼児理解について話し合い、それぞれの課題と成果を幅広く共有している。 フィールドワークを行い、園運営、保護者対応、学級経営等や担任の幼児への援助について教育実習より全体的、客観的視野からの学びを取り入れている。 グループでの絵本の読み聞かせをしながら、各々の読み方の良さや、課題見つけより幼児の心に寄り添う絵本の読み聞かせについての学びを取り入れている。又全体での読み聞かせの中から、幼児の育ちにつながる絵本の解釈を深め、実践に活かせるような指導内容を工夫している。
2 作成した教科書、教材 保育カリキュラムの基礎理論 ー教育課程・全体的な計画の学び あいり出版	平成30年6月	幼稚園教育課程とカリキュラム及び指導計画の作成についての基本的な考え方について
3 教育上の能力に関する大学等の評価 神戸親和女子大学自己評価運営委員会による「学生による授業評価」		全学的に実施される学生による授業評価において、高い評価が示されたのは、授業担当者の熱意、受講生の受講態度であり、授業担当者の一方的な授業ではなく、コミュニケーションがとれていたとの評価を得ており、全般的に良好な評価を得ている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ①教育実習生の受け入れ ②芦屋市教育委員会「子ども読書の街づくり」推進委員 ③文部科学省委託「幼児教育改善・充実調査研究」研究発表会にて幼稚園公開を実施 ④芦屋市精道幼稚園保育研究会 講師 ⑤平成24年度 保育士中堅保育士研修 講師	昭和50年～平成22年3月 平成20年4月 平成20年12月 平成22年 平成25年1月	芦屋市立幼稚園において、毎年受け入れ教育実習生の指導を行ってきた。とくに、昭和54年から主任教諭、平成9年からは園長として、教育実習生の受け入れに際しては、教師のさまざまな援助のあり方や、幼児の姿から学ぶ方向を示し、心を感じる保育者の育成に努めた。 現在読書離れを危惧し、委員会の事業としての読書推進をする。子どもに読ませたい図書・絵本400選を選びどのように推進するかを検討する。また、学校園で効果的に読書を進める「お話しノート」の作成を計画する。 文部科学省委託を受け「道徳性の芽生えを培う指導の在り方」ー幼児の規範意識を高めるためにーのテーマに平成19・20年度研究をする。<よいことや悪いことを判断する力の育成>の研究観点から19年度には中間報告20年度には精道幼稚園にて幼稚園公開を実施 年間を通して園内研究会にて保育指導を行う。「豊かに感じ、生き生きと生活する幼児をめざして」ー自分らしさを発揮し、自立心や思いやりの気持ちをはぐくむ援助をかんがえるーの研究テーマにおいて幼児が自己発揮しながら自己とかわるための教師の援助について保育実践のなかから指導する。 研修テーマ「幼児の内面理解を深める保育者のあり方」についての講話を行う。具体的な内容では、事例研究を中心とした子どもの内面理解についてや子どもの行動から細やかに気づける保育者の力量をつけるための学びや環境のあり方について、幼稚園教師としての体験や考え方を示す。

<p>⑥平成25年西宮市立幼稚園教育研究会表現部会研修会講師</p> <p>⑦平成25年度岡山県玉井市立幼稚園教育研究会・玉井市教育委員会指定研究会講師</p>	<p>平成25年8月</p> <p>平成25年11月</p>	<p>西宮市立幼稚園教育研究会の表現研修会において、幼児の表現活動を支える教師の援助の在り方についての指導助言をする。内容として、幼児が自己表現を確立していける、人的環境である教師の存在は大切さや、幼児が安心感をもって自己発揮できる教師の在り方や援助について具体的な実践例を示しながら講話する。</p> <p>研究テーマ「規範意識を培うために」一身近な人とのかかわりを深めるなかで一幼児期におけるきほんいしきをどのように考え、実践していくかを具体的な幼稚園での幼児との生活の中から、教師の在り方や援助について指導助言する。</p>
<p>5 その他 特記事項なし</p>		

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書・論文)				
1. 幼児の言葉を獲得するための幼稚園教師の援助	単著	平成26年3月	神戸親和女子大学児童教育学研究紀要第18号 (pp. 17～28)	幼稚園教育における幼児の言語獲得での教師の援助の在り方について、実践事例から幼児の実態とそれに寄り添う教師の援助について3視点から論じた。
2. 保育内容の研究(言葉)の授業改善における課題を探るー学生の授業への意識調査からー	単著	平成29年12月	神戸親和女子大学児童教育学研究紀要第37号 (pp115～128)	保育内容 領域「言葉」を、学生に理解するためにはどのような授業展開が必要であるかについて、授業を受ける前と、授業を終えての学生の意識の違いを捉え、今後の授業の内容・方法を論じた。
3. 保育者養成教育の視点からみた「子ども理解」	共著	平成29年12月	神戸親和女子大学児童教育学研究紀要第37号 (pp55～69)	保育を実践する上で学生に「子ども理解」を深めるためには、何が必要であるかを、学術、実践および学生の意識の見地から、「子ども理解」についての進めて行くべき保育養成の方向を論じた。
4. 幼稚園教職実践演習が目指したもの	共著	平成31年3月	神戸親和女子大学実習支援センター年報	平成30年度における幼稚園教職実践演習の授業内容を振り返り、学生の理解度を省みると共に、本授業の目標、目的を再度確認する。学生がその目標を達成するための授業内容の工夫、改善を明確にし、次年度の授業に活かすためシラバスを視点として論じた。
5. 教職実践演習におけるフィールドワークの展望を探るー学生の意識調査より考察するー	共著	令和2年2月	神戸親和女子大学児童教育学研究紀要第39号 (pp. 141～151)	将来現場で実践して行く学生たちにとって教職実践演習で実際に現場の保育を見ることは生きた学びに繋がる。大学4年間の総仕上げと位置付けられているこの科目の目標に到達できるかは、それまでの授業から学んだ学生の保育への意識に左右される。本論は、実際にフィールドワークを体験しながら、そこで学生がどのような意識をもって保育を見ているかを明らかにし、フィールドワークの展望を論じる。

<p>(教育実践記録等)</p> <p>1. 幼児教育改善・充実調査研究「道徳性の芽生えを培う指導の在り方」－幼児の規範意識を高めるために－</p>	<p>共著</p>	<p>平成21年3月</p>	<p>芦屋市教育委員会 芦屋市立精道幼稚園 芦屋市立西山幼稚園 芦屋市立伊勢幼稚園 (pp. 1～101)</p>	<p>文部科学省の委託を受け、3園で合同研究する。特に精道幼稚園では、「よいことや悪いことを判断する力の育成」という研究テーマで実践を深める。自己発揮を通して主体的に生活する幼児が、その生活経験から、快い気持ちを味わうことによって、善悪の気持ちを芽生えさせていくと考えた。又、幼児が芽生えた善悪の気持ちを身近な人に伝えようとする言葉の獲得を促すことで、人とのコミュニケーション能力を養いより道徳性の芽生えを培う教師のかかわりについて研究を重ねた。2年間のこれらの実践をまとめ、公開保育をすると共に、研究紀要に発表した。 編集：藤原周三 共著者：柴ひろ (p. 1～p. 2) (p. 5～p. 38) (p. 83～p. 101) 久米祐紀子、足立純子、酒井真理枝、藪内紗也加、紺谷早紀、他7名</p>
<p>2. 「幼児の規範意識を高めるために」</p>	<p>単著</p>	<p>平成21年9月</p>	<p>文部科学省 初等教育資料 9月号 (pp. 94～97)</p>	<p>文部科学省からの依頼を受け掲載する。幼児の規範意識を高めるために、教師はどのように気付き、幼児の行動を理解し教師が変容しながら、幼児期の道徳性判断力を培うには、どのような生活が大切であるか。幼児はまわりの大人や教師に認められるれ、心地よい経験を積み上げる事が大切である。そのためには、教師は、自分自身の道徳性を省みながら教師の生き方そのものが幼児のモデルとなることを心して、保育に携わることが大切である。つまり「美しく生きる」ことが幼児のモデルとしての教師の生き方である。2年間の研究からえ得た実践のまとめを全国に発信した。又、その中で幼児同士自己発揮における言語表現（言葉の獲得と自己表現）と規範意識の芽生えとの繋がりを含めた教師の援助についての実践もまとめた。</p>
<p>3. 「平成22年度兵庫県国公立幼稚園教育研究会」研究冊子</p>	<p>共著</p>	<p>平成22年3月</p>	<p>阪神支部幼稚園教育研究会</p>	<p>次年度の研究会に向けて実践内容や研究構造図の作成、各園ごとの研究テーマにせまる事例内容の選択評価の考え方などをまとめ、阪神地区研究会研究冊子作成するにあたり、助言、指導を行った。その中で豊かな幼児の表現活動から育つ幼児の言葉の発達からの観点での研究発表を行った。 共著者：芦屋市立幼稚園教育研究会 園長 会長柴ひろ・研究部長久堀久美子他</p>

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」の欄の「印」は、本人の署名をもって代えることができること。